

GEKKAN ORIMOTO

月刊 織本

8月号

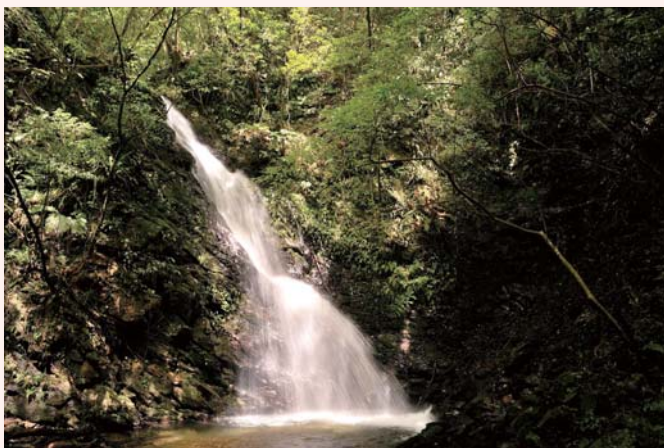
2010年8月1日 Vol.192

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘 1-261

TEL 042-491-2121 URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木由利



元厚労大臣 舛添要一氏の講演から

理事長・院長 高木由利



通勤路の百日紅が色鮮やかに咲いています。今年は昨年より夏が早く来て私は暑さにめげていますが、木々や花々はいつもと変わらず堂々としているのは立派だと思えます。

* * *

38～39度という猛暑が岐阜県で記録されたその日に私は岐阜で行われた第60回日本病院学会へ出席していました。外を歩くと皮膚がジリジリと音をたてて焦げていくような気がしましたが、岐阜のご高齢の方々が何食わぬ顔つきで長良川のほとりをお散歩する姿にちょっと驚きました。

今回は久しぶりの参加でしたが、私は個人的に奥深く学べるチャンスに恵まれました。初日は特別講演を3つほど続けて聞いてみました。現代の医療のあり方や、また医療費が安すぎるために病院は質の高い医療を行えば行うほど費用が持ち出しになるため、日本の病院の68.8%が赤字であるという現実を再確認したのです。こういう形を原価割れの医療費というのでしょうか。一般の企業や小売店でも、例えば50円で仕入れた商品は100円で売ると思うのです。しかし病院はしばしば100円で仕入れた商品を70円でしか売れないという現実があるのです。それは国が細かく

取り決めた1つ1つの価格、つまり医療費の簡単な考え方なのです。私はこれを理不尽な価格と考えています。

さてその中の1つの講演は舛添要一さんでした。議員独特の自己アピールが半分でしたが、興味深い部分も多々ありました。日本の総医療費は34兆円、そして日本の国家予算は92兆円だそうです。単純に考えても医療費が日本の予算の1/3以上を占めているため、国の経済を圧迫しているのは事実です。従って国家予算の財源確保のために消費税を上げるという考え方をしているそうです。しかし日本の医療費は決して減ることはありません。高齢化が進み、次々と難病や新しい病気が出てくるからです。従って消費税をいくら上げても解決するものではないのです。しかも病院は常に原価割れの経営を強いられ、どんどん潰れていくのです。おかしな話です。

今、大切なことは国の経済を守るために議員だけではなく国民も1人1人が自分は何をしたら良いかを考えることかもしれません。舛添さんはいくつかの提案をしましたが、その1つは国民1人1人が日本の医療を守るべきだと断言しました。“日本は世界一恵まれた医療環境にある。あらゆる人が医療を受ける

ことができ、費用も安い。すべての日本人は自分で予防、つまり自分の体をしっかり管理しようとするべきである。日本人は医療に甘えすぎている。”と。確かに私も同感する部分は多々あります。24年前、ニューヨークで次男を出産した時の支払いが140万円でした。その時、日本では30～50万円だったのです。私が語り続けている食事療法はまさに自分の体を自分で考え、管理することそのものなのです。まず

体重を減らして1日の食事の量、塩分量、たんぱく量を計算し考えて食べる、考えて生きることです。メタボリックシンドロームなど、とんでもない話です。痩せるだけで病気の50%は改善に向かい、更に病気の予防になると私は信じています。

皆さん、鏡の前で裸になり、ご自分の体型をしっかりと観察して頂けないでしょうか。それが日本を守るための自分の仕事のスタートかもしれません。

テニスとバイクとマニュアル車 ②

消化器内科 岡田 仁史



私が、バイク（オートバイ；最近バイクはスポーツサイクルを意味する事が多いらしい）に興味を持ったのは、中学生の時であった。バイクの雑誌を買い求め、いつかその雄姿に跨る自分を想像した。当然、バイクに乗るためには免許を取得しなければならない。親を説得するには困難を極めた。何とか1回だけ、運転試験場での一発試験の機会を得たが当然落選。そのまま当時の不良達が乗り回すバイクを眺めていた。

53歳の夏、日曜日の昼散歩、自宅近くの自動車教習所を眺めた。そこはバイクの教習も行っており、折しも華奢な女の子たちが教習を受けていた。私は、頸椎症、腰椎症と重いものを引き起こすなど出来ないと思っていた。しかし、あの娘達が出来るなら出来ないわけがない。そのまま教習の申し込みを済ませた。

時と同じくして、幸か不幸か、当時勤務していた病院の事務長と大喧嘩の挙句、退職と相成った。妻は”これから、どうするの！”私は、成るようになるとばかり、連日教習所通い。おかげで、早々に中型免許を手に入れた。同年の12月、晴れて400ccのバイクを手に入れた。バイク屋に新車を受け取りに行き、慌てた。既に、車の免許を取得していた私は、バイクの免許取得に際し、路上教習は受けていないのである。即ち、バイクを受け取り乗り出すやいなや、実戦路上である。

不安を抱えながらスタート。12月の冷たい空気を切り裂き奔る。基本的なジェット型ヘルメット、シールドなし。冷気に涙が溢れ出した。それとともに、言いのない興奮が訪れた、中学生に戻った。この興

奮は誰かに伝えたい。このまま家に戻れば、不満と不安に顔を曇らせた女房殿に相対することとなる。それでは、私の興奮は冷水を浴びせられるだけとなる。そのまま辺りを一回りし、バイク屋に戻る。興奮して、如何に気持ちが良かったかを語る私を、若い整備士は暖かい笑顔で相手にしてくれた。送り出される時の”気をつけて”は更に暖かい思いをくれた。

人間とは我侘な者である（私だけか？）中型バイクに乗るうち、気づく、世の中にはビックバイク成るものがあり、奴らは信号スタートで私のバイクをあっさり置き去りにする。かくして、54歳にして大型免許に挑戦することとなった。750ccの教習車に跨り、アクセルを開けた瞬間、怖いと思った。しかも、おんぼろバイクであった。アクセル、クラッチ、ブレーキ、全てにむらがあり、コントロールが難しかった。私は真っ直ぐに、2m間隔程に並べられた赤いパイロンをジグザグに進む、パイロンスラロームが不得意である。ある日、練習中、そのまま壁に突っ込んだ。教習車は壊れ、おそらく、その昔は暴走族であったと思われる、若い教官に”ちィ、こわしちィ、やがんの！”と言われ、勿論、”すみません！”。かの教官は”好いんですよ、何時か壊れますから、バイク、交換してきますね”。あちこちぶつけて痛いはずだが、不思議なくらい痛みは感じなかった。そのまま、教習を続行し、帰宅。風呂に入るや否や、絶叫。左脛は血だらけであった。

それでも、何とか大型免許を取得。晴れて、

1300cc、260kgのバイクに打ち跨る身と成った。こいつがすごい、立ちゴケ（止まった状態で転ぶ、変なの！）でも、こいつに抗うと、2～3m投げ飛ばされる。計6回、投げ飛ばされて、私には無理かと思った頃、自らの停車時の足つき性が悪いと気づいた。停車時、きちんと足をつかないと、二輪車は、いずれ倒れる。

楽しく乗れるようになると、またしても、怪しい気持ちだが…。“バイクは日本車でしよう！”という強い意識で選んだはずだった。しかし、つい、ただの冷やかしのつもりで某外国車の販売店に…。

そこには、水平対向（通称ボクサーエンジン）二気筒（フラット・ツウイン）のきれいな中古車がおかれていた。店員氏の“試乗しますか？”に“いや、足つき性を試したいので跨るだけで”。危ないったらあり

ゃしない。試乗したら、欲しくなりそうで…。ところが、跨ってみて、失敗。店員氏曰、“エンジン駆けてみましょうね！” あっ！だめ！！今まで、安定感の高い振動の少ない日本車に乗っていた私には、フラット・ツウインの横揺れ感が大きな刺激になってしまった。あーあっ、やっちゃった！また、ローン地獄だ。でも、楽しいからいいや…。



東京都ナースプラザ研修

『看護管理の実際』に参加して

一般病棟 看護師 主任 篠 幸子



6月21日に昨年の「看護管理の基本」に引き続き、「看護管理の実際」についての研修に参加しました。今回は川越胃腸病院の池田五十鈴理事兼務看護部長の講義でした。現在は病院経営冬の時代で病院数はどんどん減り続けている中、診療報酬改定があり、中規模病院はさらに厳しい状況になってきています。そのため病院はできるだけいい人材を選び、生き残るために活性化の道を模索している状態で、今主任として働いていることに感謝するとともに自分自身が選ばれる人になるように努力が必要だと思いました。

当院で働き続けるためにも、病院の理念をもう一度確認し行動に生かせるようにきちんと理解し、必要

な時は上司などと話し合い方向

性の修正をしていきたいと思います。また、理念を自分が正しく理解していないと後から入職してきた人に伝わらないし、具現化できないと思います。それほど病院の理念とは大事だと理解しました。

“仕事は幸せづくり”で“管理者は環境づくり”だと言われました。若い人が仕事を続けていけるように居心地の良い環境をつくる、これは当院の「患者様と職員、双方が癒される病院にする」、「互いにいたわり合う職場を創る」という理念そのものだと思います。そのためには自らが変わっていくことも大事です。やる気がないのを批判したり嘆いたりするのではなく、自分自身に原因があることに気づき自らが変わっていく、「よくなる基本は自分にある＝真の原因は鏡の中の自分」であることを理解していなければなりません。高木理事長がよく言われていることだと思います。どうしても他人の事はいろいろ見えてしまいが自分の事はなかなか見えず、他人の文句を言うてしまうことがあるので、口に出してしまう前に考えることが必要だと思いまし

織本病院の理念

1. 患者様に満足して頂ける医療を提供する
2. 患者様と職員、双方が癒される病院にする
3. 互いにいたわり合う職場を創る

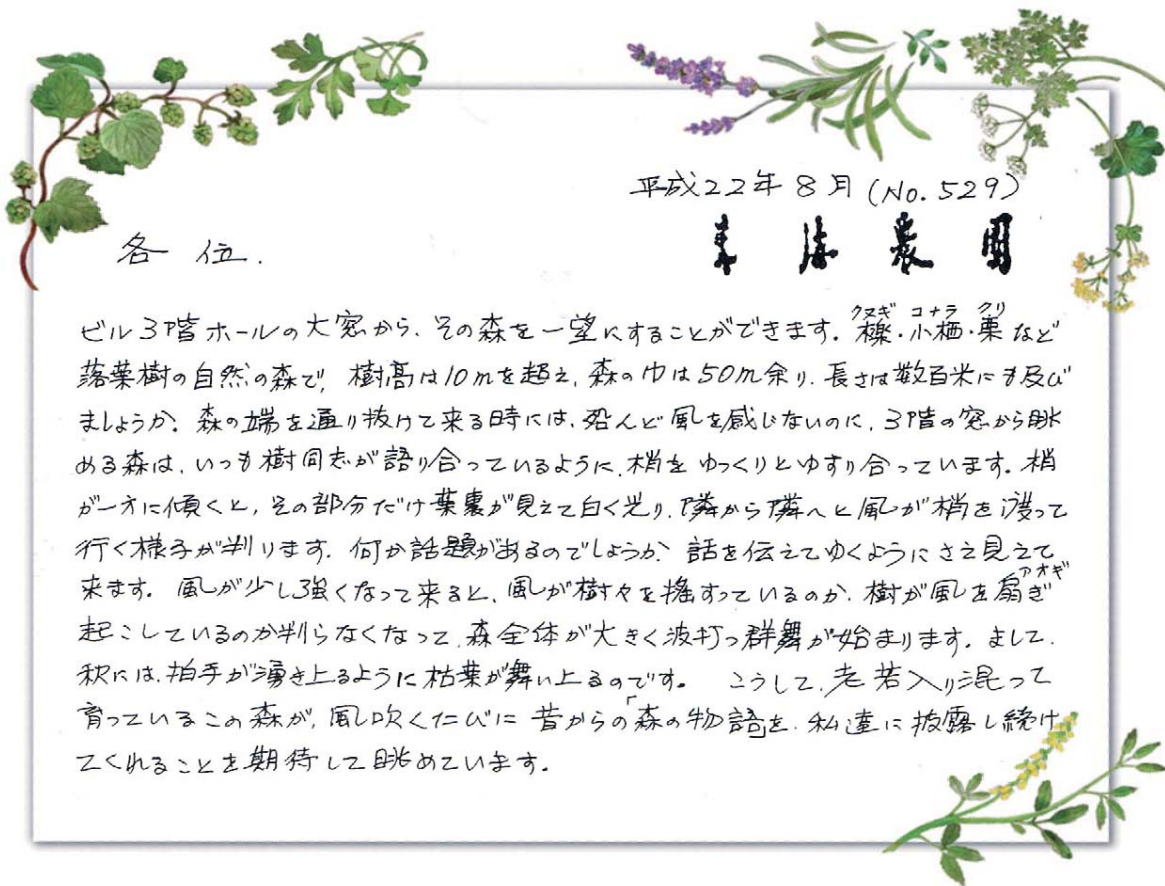
た。自分はそのように日々努力しているのか…と疑問が生まれますが、時折立ち止まり、きちんと考え行動に移せるようにしていきたいと思います。

やる気を育む最も大事な環境づくりは「いつも貴方のことを見ているよ！守ってあげるからね！」というメッセージが伝わり実感できるようにすることだと言われました。これは前回の研修で田口ヤス子先生がおっしゃった「自分を信じ、あなたは素敵」という話と同じように思います。当院の理念もそういうことではないのかと思います。“あなたのことを見ている”ということで相手をいたわることができるし、患者様

に満足していただける医療が実践できるのではないかと思います。

後半はグループワークを行いました。自分達の勤めている病院で自分が困っていること、悩んでいることなどを出し合い、互いに話し合った結果を発表しました。その中でも貴重な意見が出され有意義な検討ができたと思います。

自分のモチベーションを上げる努力をしながら、若い人達のモチベーションを下げないように注意し、今回の研修で学んだことを今後に生かせるよう努力していきたいと思います。



ご家族からのお便り

当院の患者様のご家族で、老舗の植木職人をされている、吉田幸夫さんが毎月とてもステキなお便りをくださいます。今回は八月のお便りをご紹介させていただきます。

第113回 腎疾患ゼミナール

『腎不全を理解しよう!! ⑦』

～検査データに変化が出たとき その7～』

腎臓内科：高木由利

栄養科からのワンポイントアドバイス

『でんぷんクラコットを使って携帯できるおやつを作ろう!!』

管理栄養士：前田 絵美

どなたでもご参加頂けます。皆様ぜひお越しください。

日時：2010年8月19日(木)

午後1:00～

会場：オリモトホール(当院4F)

参加費：無料